

県学会企画『学生対象病院実習対策講演』を終えて

～病院実習で困らないための秘訣、教えます～

◎吉澤 麗子¹⁾、小林 由実¹⁾、小澤 新¹⁾、青柳 慧祐¹⁾、古屋 理恵¹⁾、関谷 元幹¹⁾、高野 麻生¹⁾、田中 元彦¹⁾
神奈川県臨床検査技師会 企画委員会¹⁾

【はじめに】

1970(昭45)年の法律制定により「臨床検査技師」が誕生してから50年余りが経過した。時代は令和へと移り変わり、医療の進歩に合わせた教育の中で、病院実習の重要性は増していると思われる。

2019年12月に勃発した、新型コロナウイルスパンデミックにより、病院実習が思うように実施できない場面も経験し、未だ影響が続いている中、これからの病院実習に対して、学生だけでなく学校・病院の両関係者は不安を抱えているのではないだろうか。更に、『臨地実習ガイドライン2021』が改訂され、2022年度に入学する学生より臨地実習の在り方が変更(重要視)される。

このような背景の中、我々企画委員は、主に臨床検査技師を目指す学生を対象とした、『病院実習対策講演』を3年前から、神奈川県学会で企画・実施してきた。学生はもちろん、学校や病院関係者からも好評を得たので、ここに報告したい。

【内容】

事前に臨地実習を担当する施設の技師よりアンケート調査を実施し、心に残った学生の態度や、良くない印象を与

えた態度等を分析し、(1)社会人としての心構え(2)患者接遇(3)院内感染対策(4)医療安全(5)実習で何を学んで欲しいか、の5つに分け、実際に病院で勤務する現役技師がそれぞれ講義した。なるべく現場を思い浮かべながら、実践につながるような内容にすることを心掛けた。

【期待効果】

学生が、病院実習を少しでもイメージすることができ、安心して臨めることを期待したい。そして本来の目的である「病院」という「現場」をより多く体験することに時間を費やすことで、臨床検査技師として働く際に、即戦力となり得ると考える。

また、受入れ病院においては、オリエンテーションが省略(簡略)されれば、現場の技師の負担軽減につながると思われる。

神奈川県臨床検査技師会 企画委員会

Mail:kikaku@jinringi.or.jp